

## 事業者向け

## 放課後等デイサービス自己評価表

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			法令を遵守したスペースを確保しています。
	2	職員の配置数は適切であるか	○			法令で必要とされる配置数に加え、指導員又は保育士を1名以上配置(常勤換算による算定)しています。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	○			新施設では、バリアフリー化がなされ、段差や手すりなど、安全に過ごすことができるように配慮している。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○			日次で職員参加のミーティングを実施している。半年に1度、事業所での目標設定を行い、実施している。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			保護者へ満足度調査アンケートを実施し、業務改善につなげている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			当社HPにて公開している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		○		現在は、利用者・社内の2者評価をとっている。第三者による外部評価については、現在実施の予定はしていないが、今後必要に応じて実施を検討していく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			管理者が指導員と共に計画をたてることにより、指導員がスキルアップできる仕組みを整えている。また、年数回は児童支援に関する研修会へ参加している。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			計画期間ごとにアセスメントを取った上で放課後等デイサービス計画を作成している。また、統一したアセスメントシートを使用している。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			計画期間ごとにアセスメントを取った上で放課後等デイサービス計画を作成している。また、統一したアセスメントシートを使用している。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			子どもの療育目標や支援方法を共有・議論するケース検討会を開催している。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			子どもの特性や気持ち・興味に合わせて、効果的に楽しく学べる指導を行えるよう研鑽しています。子どもの成功体験を重視し、自発的に適切な行動をとったり、学びやすい指導環境をつくります。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○			アセスメントを元に、優先順位をつけて長期目標と短期目標を設定している、放課後等デイサービス通所計画を策定している。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			アセスメントを元に、優先順位をつけて長期目標と短期目標を設定している、放課後等デイサービス通所計画を策定している。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			打ち合わせを日次で実施し、職員間での情報共有をおこなっている。

	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○			打ち合わせを日次で実施し、前日の支援の様子を話し合い、職員間での情報共有をおこなっている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			毎回指導記録をとり、見直すことで子どもの成長や取り巻く環境の変化に合わせて、指導内容や方法を更新している。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○			一定期間ごとにモニタリングを行い、サービス計画の見直しを行い、見直して計画については職員間で共有できるように情報共有を図っている。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか	○			子どもの特徴にそいながら必要な活動を複数組み合わせている。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○			
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか		○		必要に応じて適宜行っているが、全員については十分に行えていない。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	○			
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか		○		深川市療育センター、就学先の学校との引継ぎ会議に参加する予定である。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか		○		移行者が今のところいない。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○			専門機関とは適宜連携を行っているが、システム化はされていない。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか		○		町内会の行事に積極的に参加している。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	○			可能な限り参加をしている。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			毎回の連絡ノートにて状況を伝え、保護者への情報提供を行っている。送迎時にも直接報告するようにしている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか		○		個人懇談の実施、利用児及びご家庭の状況や状態に応じて相談などを受けている。

保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○			口頭での説明を行うとともに、事業所内に重要書類を提示している。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			個人懇談の時間を設け、相談に応じる、情報を共有する体制を作っている。送迎時や電話での情報交換、助言も行っている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか		○		保護者会などの組織化は行っていない
非常時等の対応	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			事業所に受付者・解決責任者を選任する等、苦情受付体制を整えるとともに、専用のお問い合わせ窓口電話を設置している。苦情があった場合には、職員会議で対応を検討するとともに、外部相談窓口になっている専門家への報告を行っている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○			保護者向けおたよりを定期的に作成するとともに、事業所内にも情報を掲示している。
	35	個人情報に十分注意しているか	○			個人情報にアクセスできる端末はパスワードを設定する等、適切な対応を行っている。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			出来るだけわかりやすい用語を用いて説明する、文章化して後で確認できるよう配慮している。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか		○		積極的な事業所の開放は個人情報の観点から行っていないが、地域の活動には支援の一環として参加する機会を設けている。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○			マニュアルを策定し、研修を実施している。
39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			避難訓練を実施している。	
40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			マニュアルを策定し、研修を実施している。	
41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか		○		基本的に行わない方針で運営しており、職員配置を増やし対応している。	
42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○			全ての子どもについて、アレルギーの有無を確認し、指導時に該当物質との接触が起こらないよう留意している。	
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか		○		ヒヤリハット事例が起こった際には、事故報告書を作成・保管し、職員間で共有することとしている。	